

平成 26 年 1 月 発行

# 第 32 号

発行 有田川町議会  
発行責任者 議長 湊 正剛  
住所 郵便番号 643-0021  
和歌山県有田郡有田川町  
大字下津野2018番地4  
電話 0737-52-2111  
FAX 0737-52-2198

<http://www.town.aridagawa.lg.jp/profile/gikaikoho.html>

# 有田川町議会広報 かわら版

新年あけまして  
おめでとうございます



## もくじ

平成25年度補正予算など.....	2 ~ 5
町長に問う(一般質問項目).....	6
議員より一言.....	7 ~ 14
常任委員会視察報告.....	15 ~ 17
編集後記.....	18

# 災害復旧事業費に **1,800** 万円 小型消防ポンプ積載車 (3台) 購入に **698** 万円

平成25年第4回定例会は、11月25日から12月10日までの日程で開催されました。本定例会に提案された平成25年度一般会計補正予算・各特別会計補正予算、条例の一部改正、道路線の廃止・認定、財産の取得、公平委員会委員の選任、人権擁

護委員候補の推薦、工事請負契約など、提案された報告1件、議案29件、諮問2件を審議し、すべて原案の通り可決されました。また、第3回定例会に提案された平成24年度一般会計及び各特別会計の決算につきましても認定されました。

## 平成25年度補正予算の主な歳出

### 一般会計補正予算

(単位：万円)  
 万円未満切り捨て

項目	金額
議会費	△75
総務費	510
民生費	3,030
衛生費	757
農林水産業費	616
商工費	96
土木費	6,676
消防費	882
教育費	1,104
災害復旧費	△7,726
歳出合計	5,870



台風18号による国道480号崩壊現場 (井谷地区)

### 補正予算

- ◎平成25年度一般会計補正予算(専決処分)
- (台風18号による災害復旧事業費)
- ◎平成25年度一般会計補正予算
- ◎平成25年度国民健康保険事業特別会計補正予算
- ◎平成25年度後期高齢者医療特別会計補正予算
- ◎平成25年度介護保険事業特別会計補正予算
- ◎平成25年度簡易水道事業特別会計補正予算
- ◎平成25年度公共下水道事業特別会計補正予算
- ◎平成25年度農業集落排水事業特別会計補正予算

### 条例の制定・一部改正

- ◎一般職非常勤職員等の任用、勤務条件等に関する条例の制定

◎消防本部及び消防署の設置等に関する条例の一部改正



12月21日竣工式を終えた新消防庁舎（庄地内）

- ◎町税条例の一部改正
- ◎国民健康保険税条例の一部改正
- ◎後期高齢者医療に関する条例の一部改正
- ◎廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部改正
- ◎都市農山漁村総合交流促進施設宿泊棟条例の一部改正
- ◎水道事業給水条例等の一部改正（消費税5%

から8%へ引き上げに伴う料金などの改正)

道路線の認定

- ◎町道吉田北原線 小川地区
- ◎町道茗荷・砂子線 久野原地区
- ◎町道徳田焼井線 徳田地区
- ◎町道西丹生図高瀬線 西丹生図、下津野地区
- ◎町道高瀬土生線 下津野、土生地区
- ◎町道藤並駅東口線 明王寺、水尻地区



町道藤並駅東口線（天満地内）

財産の取得

◎小型消防ポンプ積載車（3台）の購入 698万円



同型の小型消防ポンプ積載車

道路線の廃止

◎町道徳田・水尻線 徳田、水尻地区

道路線の変更

◎町道井口線 井口地区

公平委員会委員の選任同意

- 楠部 康弘 氏 有田川町吉原
- 松見 好晴 氏 有田川町庄
- 岡本 康平 氏 有田川町二川

工事請負契約

◎平成25年度吉備中学校第二グラウンド人工芝整備工事請負契約 7255万円



吉備中学校第二グラウンド人工芝整備工事現場

人権擁護委員候補者の推薦（諮問）

- 鈴間 眞佐子 氏 有田川町三田
- 大西 恭子 氏 有田川町井谷

議員定数現行18名から16名へ

議会活性化調査特別委員会で検討されていた議員定数の件について、現行の18名定数から次期町議選挙には2名削減の16名とすることが賛成多数で決定しました。なお、町民の方から「議員定数は正削減」の要望書について、また区長会連合会から「議員定数削減申入書」が出されています。

# 意見書の提出

## ◎過労死防止基本法の制定を 求める意見書

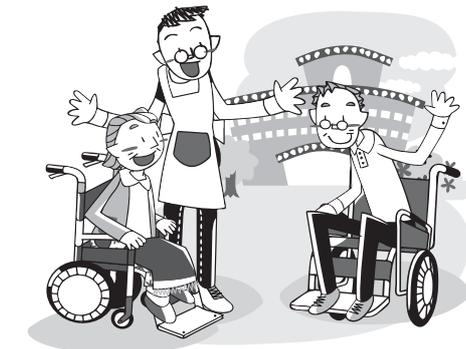
過労死が労災であると認定される数は増え続けており、過労死撲滅の必要性が叫ばれて久しいですが、過労死は、「過労自殺」も含めて広がる一方で、減少する気配はありません。突然大切な肉親を失った遺族の経済的困難や精神的悲哀は筆舌に尽くし難いものがあり、また、まじめで誠実な働き盛りの労働者が過労死・過労自殺で命を落としていくことは、我が国にとっても大きな損失と言わなければなりません。

労働基準法は、労働者に週40時間・1日8時間に  
を超えて労働させてはならないと定め、労働者が過重な長時間労働を強いられるのを禁止して、労働者の生命と健康を保護することを目指しています。しかし、当該規則は十分に機能していません。個別の企業が労働条件を改善したいと努力しても、厳しい企業間競争とグローバル経済の中、自社だけを改善するのは難しい面があります。

このように、個人や家族、個別企業の努力だけでは限界がある以上、国が法律を定め、総合的な対策を積極的に行っていく必要が  
あります。国におかれては、上記の趣旨を踏まえ、左記内容の法律を1日も早く制定するよう強く要望します。

1 過労死はあつてはならないことを国が宣言し、国の責務を明確にすること。  
2 国は、過労死に関する調査・研究を行うとともに、総合的な対策を行うこと。  
以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

平成25年12月10日  
和歌山県有田川町議会  
(意見書提出先)  
衆議院議長・参議院議長・  
内閣総理大臣・厚生労働大臣



## 「要支援者に対する介護予防給付継続」 等を求める意見書

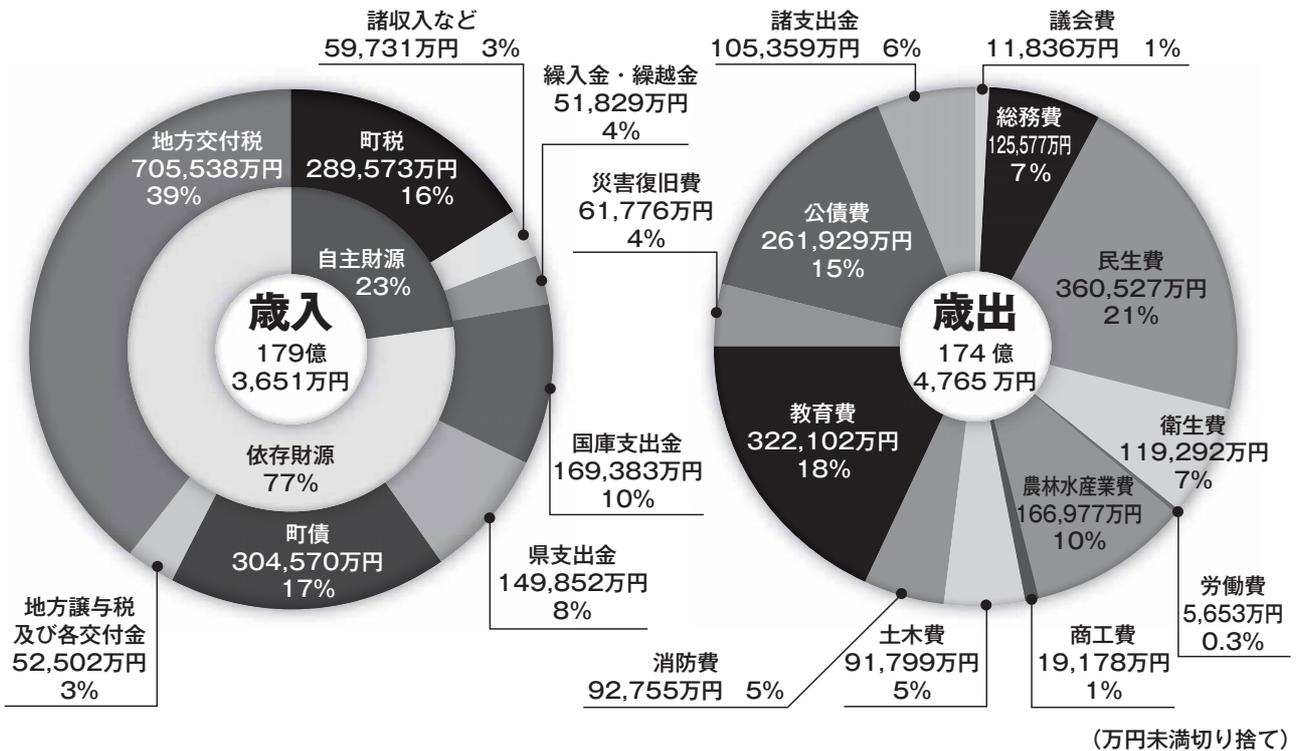
政府は、社会保障制度改革国民会議報告書に基づき社会保障制度の見直しをすすめるとして

います。介護については、「給付の重点化」の名のもとに、軽度者(要支援1・2)に対する介護予防給付をやめ、市町村に丸投げをするということを出しました。このことは左記の理由から同意できません。

1 要支援者に対する介護予防給付を継続すること。  
2 国の責任で安心の介護制度を充実すること。

平成25年12月10日  
和歌山県有田川町議会  
(意見書提出先)  
衆議院議長・参議院議長・  
内閣総理大臣・厚生労働大臣

# 平成24年度 一般会計決算の内訳



## 普通交付税の算定替えを みすえた財政運営を —平成24年度決算の認定—

平成24年度の決算額は一般・各特別会計合わせて歳入総額273億3518万円。歳出総額267億3296万円。翌年に繰り越すべき財源は1億1904万円、実質収支額は4億8318万円の赤字となっている。

自治体に示されている「財政指標」に基づいた分析結果は、経常収支比率86.9%。(70%～75%以内が目安)

実質公債費比率は12.7%。(3カ年平均で18%以上になると起債の許可がおりにくくなる)

財政力指数は、0.33%。(指数が高いほど町の財政にゆとりがある)

以上の主な指標数値からみて、財政健全化判断比率をクリアしているものの、普通交付税の「合併算定替え」の見直しも近づいてきているので、今後、予算の効果的な活用を検討し、健全な財政運営を計られるよう決算審査特別委員会において要請され、全議案が認定された。

# 新年のごあいさつ

## 有田川町議会

議長 湊 正剛  
副議長 西 弘義

新年明けましておめでとございます。

町民の皆さまには、ご家族おそろいで輝かしい新年を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。また、昨年中は皆さまのご支援により、議会活動に精励できましたことに對し、心からお礼申し上げます。

平成18年にスタートした有田川町も誕生から丸8年がたち、皆さま方のご協力と温かいご支援により、まちづくりが飛躍的に進んでおります。さて、本町を取り巻

く環境は依然厳しい状況であります。町民の代表としての認識に立ち、町民皆さま方のご意思を町政に反映させるべく、議会としても全力を尽くしてまいります。どうか本年も変わらぬご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びにあたり、この一年が皆さまにとりまして明るくすばらしい年となりますよう、またますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。

# 町長にもの申す 一般質問

質問議員氏名	質問事項	質問議員氏名	質問事項
1 前勢 利夫	1. 中山間地域の農業の母体、棚田をいかに守り振興発展を確保していくのか 2. 有田川町指定管理有田川町木材利用促進加工施設の今後は	4 増谷 憲	1. 集中改革プランの内容はどうか 2. 道路整備と環境整備を求める 3. みかんと山椒の販売などの対策を求める 4. 木材加工所の方向は 5. 特別養護老人ホームしみず園の運営を問う
2 佐々木裕哲	1. 風力発電のロータ落下事故の教訓から	5 堀江眞智子	1. 有田地方に安心して子どもを産み育てられる体制を 2. 学校教育任せにならない社会教育のあり方の検討を 3. 通学道路に防犯灯の設置を
3 殿井 堯	1. 計画的な町道の舗装工事を 2. 有田川町役場近くにガソリンスタンドができセルフサービスという事で価格が安くなっているが、町の公用車はどう対応するのか 3. 公共施設の音響設備の対策は		

# 4年間をふりかえって

第4回定例議会で5人の議員が質問しました。毎回、質問内容を掲載し、皆さまからご好評をいただいておりますが、今回は、編集期間が短かったため掲載できませんでした。質問項目だけお知らせします。ご了承下さい。

なお、そのかわりとして、「4年間をふりかえって」と題して、原稿を提出された議員の記事を紹介します。

私は、通算25年間議員をさせていただきました。これも町民皆さまのご指導とご鞭撻があったからこそ議員活動が続けられ、また一回も休まず質問に立ち、のべ100回質問をすることができました。

議会での取り組み姿勢は、町民皆さんのためにならないことには反対し、また少しでもよくなることには、他の議員といっ



増谷 憲

町民の皆さんに支えていただいた4年間

しよに取り組んできました。そして寄せていただいた切実な声は議会活動を通じて少しは町政に反映できたと思います。

特に、医療費の無料化、若者の雇用対策、防災対策、有害鳥獣駆除対策、公共交通の充実などに取り組んできました。

合併してから8年経ちますが、山間地域の状況は一層深刻さを増しています。若者の雇用対策を中心とした定住対策、また子育てしやすい環境づくり、農林業の振興策、高齢者が安心して暮らせるまちづくりが一層求められています。

今後、さまざまな事業

の見直し、町民負担の増加などに対してどういう姿勢で取り組むかが求められています。

また、例えば国の制度改正で地方自治体へのしわ寄せも大変です。介護保険制度の要支援を介護保険制度からはずし自治体の責任にすることや、消費税率の引き上げは、町が支払う消費税額も多くなり町負担となります。このように国とのかかわりでも指摘できるかどうかとも問われてきます。

今後とも、皆さんから学び、町民の立場に立って議員活動ができるよう取り組んでいきたいと思

各議員より一言

議席順に掲載

女性の目線で



堀江真智子

この4年間、町民の皆さんのお力添えで毎議会ごとに皆さんの声を一般質問として町行政に届けられたことに感謝申し上げます。

私は、女性の目線で特に子育てのことや教育のことなどに取り組んできました。

皆さんが日常生活の中で感じられている声や問題点が少しでも届けられたのではないかと思っています。

これからも、町政や議会での活動のことなどを多くの方々との対話で知っていたただくとともに、町民の皆さんが日常生活

の中で感じておられることを町政へ気軽に届けられる、開かれた町づくりができることを望んでいます。

議会では、女性はまだまだ少数です。そのような中でも女性の声を届けられたのは、男性議員のご理解やご協力があったからだと感謝しています。

私がさまざまな活動に取り組んでこれたのは、生活相談やPTA活動、ボランティア活動や趣味の活動などに関わらせていただき、多くの方々とふれあうことができたからだと思っています。

今後、議員として必要とされるよう努力していきたくと思っています。

現在この有田地方では、子どもを産むためになくてはならない産科が民間病院1カ所しかないという状況です。皆さんと力をあわせて、産科確保の運動に取り組んでいきたく

と思っています。

議員定数が削減される中で、小さな声は行政に届きにくくなっていきます。そんな中で皆さんの声を少しでも多く集め、これまで以上に子育てがしやすく暮らしやすい有田川町をつくるために、私なりに努力していきたくと思っています。

安心・安全な暮らしをめざして



橋爪 弘典

新年明けましておめでとうございます。

旧3町、清水、金屋、吉備が合併して、8カ年という歳月が流れました。合併当初は、それぞれの旧町意識が強く出て、「ギクシヤク」感も多少ありましたが、行政の取

り組みの成果で一体感が生まれ、全般的に軌道に乗って走り出したように感じます。

行政全体を事業面から眺めてみますと、学校施設は全部の学校で耐震化工事が終了し、増改築工事も完工しました。

私の強く取り組んできました道路工事関係で、糸野・中野間の市場バイパス工事も平成27年度に完成予定で、供用開始も目前であります。

県道海南・金屋線のトンネル工事は、海南市側のトンネルへの道路の取り合わせ工事も間もなく完工致します。有田川町上六川も、市場バイパスの工事が終わり次第、一気に工事が行われる予定で、トンネルの掘削工事も数年内に開始されるよう全力を挙げて取り組んでいます。このトンネルが貫通いたしますと、海南市、有田川町ともども大きな

活性化が期待されます。

60年前の昭和28年7月18日和歌山中部を襲った空前の大雨により、有田川が大きく氾濫し、犠牲になられた方が数百人に達し、大変な被害をおよぼしました。災害は忘れた頃にやってくるという教訓を忘れることなく防災意識を常にもって行政に取り組むのが私どもの役目であります。

今後とも町民が安心、安全な暮らしができますよう努力を続けてまいります。

国政も安倍政権の発足で明るさが見え始めました。わがふるさと有田川町の今後ますますの発展を願うものであります。町民皆さま方のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。皆さま方のご多幸、ご健勝をお祈りし、私のあいさつとさせていただきます。

考えるところ



東 武史

かつてから、山を動かさなければこの町の未来はないと思ってきたが、リグニンがその未来ではないか（三重大学の船岡教授が研究）。リグニンは木から抽出される物質であり、石油に代わるものとして期待されるものである。

調査し始めた頃、折しも石油価格が高騰し、近い将来枯渇すると言われていた。しかし、5年前の調査では、岡山の試験プラントで1ℓ当たりおよそ540円であり、まだまだコスト面での問題があった。その後、各国で石油が新たに発見されたり、

メタンハイドレード、シエールガスの発見など、開発も進んでいる。しかし、異常気象や地球温暖化の要因とされる。バイオエタノールはトウモロコシなどから作られるが、これも食糧難や物価高騰の問題をはばむ。また、クリーンエネルギーの原発は安全性が確保されているとは思えない。

まだまだ開発余地が多く残されているが、リグニンの良さは石油のように燃焼させることが第一目的ではなく、まずは製品として利用し、最終的に燃焼させるという循環型社会を再構築するところにある。

日本の経済は現在、大企業・都市中心の経済であり、田舎は過疎化が深刻化、消滅しかかっている。それは資源がないとされるからだ。また、食糧の自給率も4割に満たない中、TPP交渉がな

されている。資源を輸入に頼る以上、この経済システムは変わらないと思う。

そういう意味において、リグニンこそがこれからの地方を元気にし、雇用を生み、地域を活性化させ、ひいては「美しい日本」「安心・安全・快適なまち」が築かれていくのではないかと思うし、またそう願う。

住民目線の政治を理念として



岡 省吾

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様さまには健やかな初春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

議員任期満了前、最終の「かわら版」発刊に際

し、一言ごあいさつ申し上げます。

有田川町が誕生して8年が経過いたします。この間、私も議会議員として活力ある町づくり、町民皆さまが安心・安全に暮らせる町づくりを念頭に、住民皆さまのお声を行政に届けるため、一般質問や委員会などの場で執行部に対し、政策提言や提案をしてまいりました。

特に過疎地の問題、防災関連、教育や福祉対策に観光振興策などを重点に置いて活動し、皆様のご期待に添えられるものとなったかは分かりませんが、常に住民目線からの政治を心がけ、それを私の理念として取り組んでまいりました。今後ともそのスタンスを崩さずに頑張りたいと思っております。

さて、行政に目を向けますと合併して10年目

以降、合併特例により手厚い交付税算定を受けていた現状から、算定方法が一本化され、それに伴う普通交付税の減額が懸念されます。これは自主財源の乏しい有田川町にとって非常に憂慮されることとあります。

また今日までに大型事業はほぼ完了しておりますが、これからは公債費償還の時期もむかえますから、ますます財政を圧迫することが予想されます。今後、財政健全化に向けた取り組みに拍車がかかり、事業の圧縮や見直し、また抑制など、あらゆることの取捨選択が迫られるものと思えますが、住民サービスの低下を招かないように初心の理念を忘れず努めてまいりたいと思えます。

結びに、皆さまのご健康ご多幸をお祈り申し上げます、新年のごあいさつとさせていただきます。

今こそ日本の原点  
地方を取りもどす時だ



前勢 利夫

光陰矢の如し、歲月は人を待たず、有田川町創設以来2期目8年が過ぎようとしています。温故知新、個人も社会も常に過去の現象を直視する中で新しい手法を生み出し、実践することにより更なる向上発展をめざさねばなりません。

2008年世界金融恐慌、続いての2009年の政権交代による決めることのできない事態が地方に波及。更に2011年東日本大震災は国の経済社会に甚大な被害を与えました。

かに」を公約に現政権は圧勝し、続いての2013年に長期にわたり続いてきた「ねじれ現象」を解消。企業活動の沈滞、生産の減少、物価の下落、失業者の増加、所得の減少というように、景気後退から脱却を図り、景気を良くするための対策が進められています。

自主財源23%の本町にとっては基幹産業の農林業策として攻めの農林業を展開し2兆2976億円を担い手の育成に、また所得の向上、基盤整備、CO2削減対策の財源確保、森林整備計画の抜本改正、直接支払制度の創設、国産材の利用促進、木の文化の普及、木質バイオマスの利用促進、価格安定対策、間伐路網の整備、獣害防止、災害に強い森づくりに取り組みます。

地方産業対策として、中小、小規模事業者を支援するため予算の倍増、資金繰りへの徹底サポート、消費税転嫁対策の推進、観光地の整備、国土強靱化政策による「命を守り抜く防災対策の推進」などを公約。これらを現地の状況に合わせて有田川町として具体的に実現するため取り組んでいきます。

地方産業活動にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

有田川町の明日は



湊 正剛

昨年、「あさぎり」「山椒体験棟」「宿泊棟」「わらし」などのしみず温泉周辺整備が整い、また全国にもないほど充実した「吉備中学校」も完成しました。

昨年、「あさぎり」「山椒体験棟」「宿泊棟」「わらし」などのしみず温泉周辺整備が整い、また全国にもないほど充実した「吉備中学校」も完成しました。

昨年、「あさぎり」「山椒体験棟」「宿泊棟」「わらし」などのしみず温泉周辺整備が整い、また全国にもないほど充実した「吉備中学校」も完成しました。

議員活動とはなにかを「胸」に



佐々木裕哲

新年あけましておめでとうございます。

早いもので合併して8年。いつも町民皆さま方のご支持、ご支援の中、議員活動とはなにかを胸に、皆さま方の声を一件でも多く町行政へと、議会において毎回質問させていただきました。結果、行政に多々そのことが取り入れられたこと、この上もない喜びです。

私は議会において議会運営委員会や3常任委員会「総務文教・住民福祉・産業建設」をはじめ、各特別委員会を担当させていただき議会とはなにか、また住民の代表であ

る議員とはなにをすべき

かを勉強させていただきました。有田川町も少子高齢化などで合併後約2千人が減少しました。町民のための発展ある力強い町づくり対策が必要で

す。そのために何をすべきか行政・議会は、より

真剣に取り組まなければなりません。今、国の財政は厳しいですが、わが町の財政運営も厳しくなるのは目に見えています。町執行部はもちろん、町政をチェックする立場の議員は、より厳しさが求められるのは当然だと思えます。

本当に町民が望んでいる行政が行われているのか、無駄な仕事をしていないか、町民に対して大きな負担がかかるようなことがないか、私は今までも時には厳しいチェックをし、またいろいろな課題に対し提案もしてきました。今後もその姿勢で臨

みたいと思います。

最後にこれからも有田川町発展のため、町民が安心して希望を持って暮らせる町、そして有田川町で住んでみたいといわれるような町づくりを目指し、皆さま方のご意見を聞きながらがんばっていきたいと思います。今後ともご支援ご指導をよろしく願います。

住みよい町をめざしての議員活動



森本 明

町民の皆さま、新年あけましておめでとうございます。

平成22年有田川町になって2期目の町政にも参画させていただき、厚く御礼申し上げます。

この4年間は多くの大

型事業が完成。中でも全

国に誇れる吉備中学校の体育館や武道館、そして校舎の建設は、行政、議会にとつて大変大きな仕事であったと思います。

私個人の議員活動について、少しお話いたします。安心安全で住みよい町をめざして一般質問をいたしました。そのことに行政もご理解、ご協力いただきました。

ハード面では金屋庁舎の改築、金屋、中井原排水路整備事業が完成し、ゲリラ豪雨でも対応できるようにになったものと確信しています。

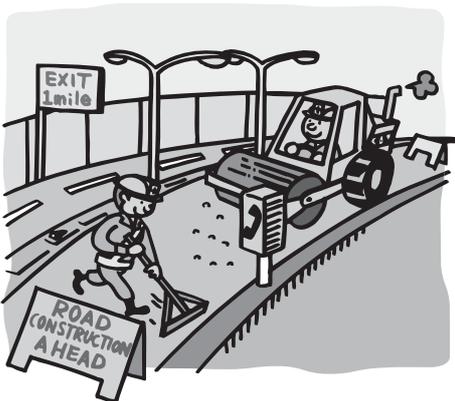
小川地域では小川農道新設工事が進んでおり、県工場の市場から糸野バイパスも第2期工事中で完成すれば、皆さまが待ち望まれている鏡石トンネルへと続くものと思っています。

ソフト面では子どもの健全育成に努め、ネット

上の書き込み抑止、人への思いやる心を基本とした教育の推進、こどもサポート声かけ運動もお願いしました。

今後においてもいじめのない教育が一層図られ、心身ともに健康なお子さまばかりの、笑顔あふれる町になるものと期待しています。

最後になりましたが、町民各位のますますのご発展、ご健勝をご祈念申し上げます。



常に眼を光らせて



殿井 堯

近年の有田川町の財政状況は非常に厳しい状況にあります。その財政難を克服するためには、行政改革と意識改革に早急に取り組む必要があります。

町の主産業である林業やみかん産業などの促進を訴え続け、旧清水町のあさぎり施設周辺の改修に伴い、少しでも地元活性化につながるよう努めてまいりました。また、不透明な工事契約を指摘することにより、財政支出の削減を図り、全ての業者が平等に公平に競争できるように制度を充実するため、地場産



業の育成を図ってきました。そのため、地元業者

にできる仕事はなるべく地元の方々にお願ひするような体制を推進させていただきます。

今後も健全な町行政の運営のために、私たち議員が常に眼を光らせ、慢性的に行われてきたさまざまな事業を根本から見直し、徹底して無駄を洗い出す必要があると考えます。

吉備中学校・消防庁舎の新築工事も終了し、町民皆さまの安全安心な暮らしを支える防災対策も徐々に整ってきました。

より一層住みやすい町にするため高齢化対策はもちろんのこと、これからの有田川町を支えていく若者や子どもたちが希望をもって暮らせていく町づくりをめざしていきたいと思っております。

町民皆さま方の声に耳を傾け、期待にお応えできよう努力を積み重ねてまいります。

振り返ってみると



西 弘義

一年の始まりを迎えられたことに感謝をし、この慶びをみなさまと共感できることを幸いに思います。

私の質問内容は先の4年間と同じく、防災問題を主にして河床の浚渫を

重要視した結果、当局の働きかけもあり、有田川の吉備地区、清水地区において堆積土砂を搬出する運びとなりました。搬出土砂の利用方法についてはまだ道半ばですが、官・民が一体となって模索する必要があると思っております。

また、「職員の採用は偏差値だけではなく、心の通った人材を採用しては」の質問では、以前より良い方向に変化があったように思っています。

それから「職員のボランティア意識の向上を」の質問は、町長を筆頭にボランティア活動に取り組んでいるようです。

他にもいろいろと質問をしましたが、全体的には前向きな姿勢で取り組んでくれていると思えました。

私自身この4年間を振り返れば、もっと早く問題視できなかったのかと思うことがあります。



それは、若い人が議会に出てこれる土壌づくりができていない点です。今の有田川町議会は高齢化が進んでいる状態であり、「議員活性化」をするには若い人の活力が必要で、今の状況では無理だと思えます。この問題は早々にしなければなりません。「議員活性化」が進み、議会活性ができて私を私は望みます。私はこれからも誠を尽くし、真実の道を歩みつづけていきたいと思います。終わりになりましたが、寒中の折、お身体には十分留意され、ご自愛し春の芽吹きを迎えられることを願います。合掌

住民の立場にたつてチエツクを



中山 進

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

これまで町民の皆さま方からの温かいご支援をいただきながら議会議員として活動をさせていただきました。

地方分権一括法の施行以来、地方自治体は、地域の実情にあった政策や施策を形成し、自らの責任において実施することが求められており、したがって議会の役割もますます大きくなってきています。



状況、少子高齢化、人口減少など大きく変化しております。

このような状況の変化に的確に対応するため、事務事業の簡素化、効率化、職員定数の適正化など、さまざまな行財政改革に取り組んでいます。これらのことをすべて適法、適正に、公平、効率的に、そして民主的に執行なされているか、議員として、住民の立場に立って監視してきました。合併して8年が経過し、ひとつの町としてまとまってきました。

本町のますますの発展と、住民すべての皆さん

が希望をもつて暮らしていける町づくりのために、今後一層の行政改革を進めていかなければなりません。皆さまからのご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

安心して暮らせる魅力ある有田川町を期待



竹本 和泰

新年おめでとうございます。町民の皆さまには希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

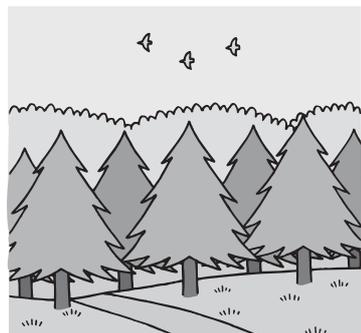
豊かな自然、歴史や文化遺産が豊富である有田川町は、合併して早や8年が経過し、旧3町住民も町づくり事業や各種行事などに一体感をなし、融和も深まってきている

と思います。

振り返ってみますと、藤並駅の改築、保育所、小・中学校の耐震化および改築、新消防庁舎、下水道事業などの大型事業も着々と進められ、また吉備庁舎周辺へ多くの企業店舗の進出など有田川町も大きく変貌してきています。

一方、特に中山間地域では少子高齢化、過疎化の進行が顕著で、集落が衰退していくことを危惧するものであります。これらの地域住民が安心して暮らせる福祉施策、地域活性化対策が喫緊の課題であると思います。

私は、町会議員に送っていたから、主に行政運営やへき地対策、福祉問題などの施策を質し提言を行ってきました。コミュニティバスの運行や福祉対策など一定の方向が示されてきています。このような状況であり



ますが、私自身、次期町議選には、向こう4年間の体力、気力を考えると自信が持てないことなどから、今期を持って引退させていただくことと決意しました。合併後8年間と旧金屋町での約1年間と合わせて9年間、多くの方々にご指導を賜りながら曲がりなりにも議員を務めさせていただきました。心より感謝申し上げます。今後は一町民として、希望の持てる魅力ある有田川町を期待し、地域づくりに微力を注ぎたいと思っております。

安心・安全なまち  
づくりをめざして



亀井 次男

新年あけましておめでとう  
ございます。

町民の皆さまには、希望に満ちた平成26年新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

先日、選管より町長、町議の任期満了に伴う同選挙が2月2日に実施されると発表されました。満了を控え、町民各位にご支援、ご指導、ご鞭撻を賜りましたことに対して感謝申し上げます。

さて、有田川町の現状は、人口で、平成18年合併時は2万9千人台。現在は約2千人減少しています。

面積は、有田市、湯浅

町、広川町の1市2町と金屋地区とほぼ同面積です。

町内には、107区あり、区や各種団体の陳情要望に3常任、6特別委員会

(基本3地区から2名)などにおいて議論や現地視察を行い、バランスのとれた町になるよう提案

されたことに賛否や具申を行ってきました。

幹線道路は、阪和道の大阪方面の4車線化で産業観光のみならず、緊急自動車も順調に通行でき、

国道424号、480号も中山町長と担当委員会が、県や地元国会議員に陳情され、

用地が完了の箇所から工



事がされています。

町内の均衡ある発展と県内の中核町との理想が現実に進んでいるとの声

もあります。

有田川町の次代を担う保育施設は、他町に劣らないと思えますが、吉備

地区の0歳児保育所がもつと必要だと思えます。

また、小・中学生の授業中に土砂災害警報が発

された際の帰宅に配慮しなくてはならない地区もあると思えます。

今後とも安心・安全な町づくりをめざしてまいります

有田川町発展のために



森谷 信哉

新年あけましておめでとうございます。

町内の皆さまにお支えいただき、有田川町の議員として4年間が過ぎようとしています。

その間、昨年度におきましては、第19回全国棚田サミットが開会され、

地元有田川町の皆さまには、地域の垣根を越えて

ボランティアなどご協力

いただき、無事開催でき大変ありがとうございました。

また私にとっては念願であった、安諦バイパス

の事業化も決定され、現在は地元の方々と協力し、

早期完成に向けて取り組みをさせていただいて

ます。

しかし、まだまだ国道整備は、狭小な区間や問題

があるところが多く、少しでも利用される皆さま

が不便のないように県の関係機関と連携して随時整備していただけるよう

取り組みたいと思えます。

また、有田川町に素晴らしい農林水産物があることが改めて分かり、PRなど、ブランド力の強化に取り組んでいきたいと思えます。

更に、高齢過疎地域の問題は今後一層、重要な問題となってきたおります。

今後はライフラインの整備・住民サービスの低下や生活を行う上で不便

のないように取り組んでまいりたいと思えます。

元気な活力ある町づくりを行うには、行政、議

会はもとより、地元の皆さまのお声を聞き、その

声を行政へと反映させなければならぬと思っ

ています。

今後とも有田川町の発展のために努力して、皆

さまとともに取り組み、住みよい町になるように努力していきたく思います。

総務文教常任委員会視察

安心安全なまちづくりと

財政健全化に向けて

委員長 殿井 堯

去る10月7日と8日の日程で、香川県三木町と岡山県瀬戸内市を訪れ、委員会視察を実施しました。

防災対策と健全な児童育成のために

初日の三木町では、防災対策と児童健全育成事業について伺いました。

三木町では早くから自主防災組織が結成され、活発に活動されております。

特色といたしましては、有田川町のように区単位で自主防災組織を結成しているわけではなく、地域を細分化して小さい組織を数百の単位で結成されているところにあります。



住民と職員の間が見通し開放感ある各課窓口(香川県三木町)

平成24年度の結成状況は、282の組織が結成されており、町内一斉の防災訓練も消防団や自衛隊と連携し、年1回実施されています。

また緊急時情報伝達手段として、行政防災無線はもろんのこと、防災ラジオ・防災行政メール

などを用いて、住民に対していち早い情報の伝達に努められております。なお、防災ラジオ購入費の約7割を町が補助し、購入世帯の負担を軽減する措置を講じております。現在、日本を取り巻く気象状況は異常な状況下にあると考えられます。住民を守るため、日頃の防災訓練や災害時の迅速な情報伝達は行政に課せられた重要な課題と位置づけ、更なる防災対策に取り組まなければなりません。

また、放課後児童健全育成事業につきましては、保護者が労働などにより昼間家庭にいない、小学校に就学している概ね10歳未満の児童に対し、授業の終了時に児童館などを利用して、適切な遊びや生活の場を与えて健全な育成を図ることを目的に、平成10年から開始され、現在8つの児童クラ

ブに438人が利用されております。有田川町も同様な課題であります。今後、指導員のスキルアップや小学校との連携を密にしていくことの重要性をあげておられました。

将来的な財政見通しの見地に立って

2日目に伺った瀬戸内市は、平成26年に合併10年を迎える市の財政状況と今後の財政計画についてお聞きしました。

有田川町におきましても、合併算定替えによる交付税算入の動向が憂慮されることから、興味深く拝聴いたしました。

瀬戸内市は、平成27年度から段階的に普通交付税が減少していくことから、今後の財政健全化に向け、財政運営適正化計画を立て、投資的事業の見直しや公営企業会計への繰出金の抑制、公債費や人件費の抑制などを実



行財政改革について意見交換する(岡山県瀬戸内市役所)

施していくとのことであり、また、平成24年度から外部委員13人からなる「瀬戸内市まちづくり会議」を設置し、検討を重ね、市長への提言や決定事項を市民に公表しているとのことでもあります。

有田川町においても、今回の視察を参考にさせていただき、住民目線の行財政改革に努めなければなりません。

**産業建設常任委員会視察**  
**住民が主体となる町づくり**  
**農業を生かした振興を**  
 委員長 佐々木 裕哲

去る9月30日から10月1日にかけて産業建設常任委員会は北海道夕張市と栗山町の視察研修を行いました。

**補助金に頼らないボランティア活動で地域活性化をめざして**

夕張市はかつて炭鉱の町として繁栄を極めたが国のエネルギー政策「石炭から石油」への転換により、平成2年には炭鉱はすべて消え、当時の市長は町おこしのため観光施設の投資へと転換しました。しかし景気の低迷などによる経営不振で財政がひっ迫し、平成19年には650億円の負債を抱え財政破綻し、また最盛期12万の人口は1万人を割り「超高齢・超過疎

のまち」へ激変しました。破綻によりすべての観光事業が頓挫し、貴重な施設や資源が切り捨てられました。

しかし市民の中から補助金がなくてもなんとかしようとボランティアで「夕張観光ボランティア



住民が主体となった町づくりの取り組みを聞く(北海道夕張市)

ア・ガイド友の会」を立ち上げ、以前の観光協会と力を結集し「NPO法人ゆうばり観光協会」として市の財政に頼らない地域を活性化させる具体的な取り組みについて

「生の声」を聴かせていただきました。地域活動をされている方々が懸命になんとかして後世にバトンタッチするのだとの情熱を感じることができ、私たちは感銘と同時にこれがボランティアだと再認識させられました。

**将来の地域農業を担う人材の育成**

2日目は栗山町を訪問しました。

栗山町は平成18年、全国で初めて議会基本条例を制定した町として有名で、人口1万3千人の農業が主産業のまちです。

今回グリーンツーリズムの取り組みと農業振興について研修を行いました。

た。

グリーンツーリズムとは、緑豊かな農村・漁村で自然文化、人々と交流を楽しみながらゆとりある休暇を過ごす滞在型の余暇活動のことです。

栗山町は、農業生産だけでなく、農と一体となった地域活動に力を入れています。具体的には都市と農村との交流の環境として中学生の宿泊研修や関西方面からの高校生や修学旅行の受け入れ場所として個人農家を提供しています。体験学習を通して農業の魅力を伝えていきます。

将来の地域農業を担う人材の育成として、新規就農者の受け入れ推進、地域農業担い手育成、優れた農業のトップリーダーを育成するための「くりやま農業未来塾」の活動に取り組んでいます。また、若手農業者の妻を対象にした「くり



全国初の議会基本条例を制定したことで有名な北海道栗山町

やま農業女性塾」も積極的に取り組んでいます。この背景には農産物の自由化など農業情勢の大きな変化に対し強い農業、強い農家をめざす必要があるからです。

今回の研修でわが町でも共通、参考にすべきところが多々あり町執行部と連携しながら取り組みたいと思います。

住民福祉常任委員会視察

地域の医療は

総合的に見える体制を

委員長 増谷 憲

去る9月26日から27日の2日間にわたり、広島県の神石高原町と尾道市を視察しました。

認知症グループホームを廃校舎で実施

神石高原町は、平成16年に3町1村が合併。人口は1万404人、高齢化率は43.5%。世帯数は4171世帯、面積は約380平方km。

認知症への対応として「もの忘れ外来」の診察にも取り組んでいます。また、NPO法人が廃校舎を利用して認知症グループホーム「安田いこいの家」の事業に取り組んでいます。

15人定員で、デイサービスは一日9人、宿泊は



廃校舎を利用した認知症グループホーム「安田いこいの家」(神石高原町)

5人までとなっています。朝9時30分から午後4時ごろまで利用者が憩い、サービスを受けています。デイサービスの利用料は介護度により1日802円から900円の間となっております。入所者の1カ月の家賃は35700円です。校舎を利用する上で問

題になったのは、耐震化であり、昭和56年以前の校舎は耐震化しないと改造できないといわれ、改造費に約8800万円かかっています。

寝たきりゼロをめざす取り組み

2日目は、尾道市の保健・医療・福祉の連携した取り組みについて視察。この事業は平成17年3月末に尾道市に編入合併する前の御調町が取り組んできた内容です。旧御調町は人口約7500人、2500世帯、約83平方km。

公立病院を中心として寝たきりの方をなくす取り組みをしています。病院を退院した方がなぜ再入院してくるのかと疑問を持ち、適正な治療だったのかと問いかけ、在宅のあり方に目を向け医療体制の組織改革に踏み出したとのことであり

ます。

病院に保健師を配置。次に老人保健施設や特別養護老人ホームの運営、リハビリセンターやデイサービスセンター、グループホームの運営も入れて総合的に保健・医療・福祉の連携へとつなげていきます。

このように連携することで、必要な人に必要なとき「在宅ケア」や「施設ケア」を提供できることになりました。

入院中にリハビリスタッフが在宅者を訪問し、入院中にどんな対策が必要か調べます。そして対策会議で情報交換していきます。

寝たきりの方は、10年前に比べ3分の1に減少しています。また旧御調町の老人医療費と県内の医療費を比較すると県内の医療費よりも低くなっています。

これらの取り組みで人



公立みつぎ総合病院で説明を受ける(尾道市御調町)

口約7万人を診療圏域としての中核的医療機関となり、移住してくる方もあり、人口はあまり減っていないようです。

最後に、2つの自治体での研修内容から、有田川町でも寝たきりや認知症の方が増えてくる中で総合的に見える体制が必要。体制ができれば地域が元気になることにつながり、医療費も抑えられることから、波及効果は高いものになると考えます。



地域のまちおこしに取り組む和歌山大学観光学部の学生さん（第19回全国棚田サミット-平成25年11月）



2月に新しく議会の構成が決まります。

その後、3月議会で一般質問の日程が決まります。

今年も議会では、みなさんの生活に直結する問題を議論します。

今後ともぜひ傍聴にお越しください。

なお、吉備庁舎、金屋庁舎、清水行政局の各1階ロビーにおいて議会中継もしていますのでご覧ください。

また、議会ホームページでも、情報発信しています。ご覧ください。

### 求む!



広報委員会では、議会広報誌「かわら版」の表紙を飾る写真・イラストなど、町民みなさんから募らせていただいております。

有田川町の名所や風景など、お気軽にご応募ください。また、地域のサークルや団体を紹介するページも増やしたいと思っております。ご連絡くださいれば取材にお伺いします。  
みなさんからのご意見、ご感想もお待ちしています。

### 議会広報編集 特別委員会

- ◎増谷 憲
- 岡 省 吾
- 橋爪 弘典
- 森本 明

◎は委員長  
○は副委員長

### 編集後記

第19回全国棚田サミットが、11月8日から9日の2日間、わが町で最も田舎の原風景が残り、棚田の中でも稀な扇形状のあらぎ島や三田、沼地区の棚田で実施され、全国各地から約830人が参加し盛大な開催となりました。分科会では、高齢者で棚田を保全するには限界を感じるとの悩みが発表され、コーディネートから棚田オーナー制度の活用と併せて、その地域すべての生物を利用した、環境野外博物館（エコミュージアム）を考えてみても面白いのではないかと助言がありました。このサミットが地元の皆さん、学生さんを始め多くのボランティアのご協力で盛会裏に終わることができ、町のPRにもなりました。この地域の今後ますますの活性化を期待しています。

（森本 明）

お問い合わせ ☎ 521-2111  
吉備庁舎4階 議会事務局まで